



## サービス プロファイルの設定

- [UCS Manager のサービス プロファイル \(1 ページ\)](#)
- [サーバ ID を上書きするサービス プロファイル \(2 ページ\)](#)
- [サーバ ID を継承するサービス プロファイル \(3 ページ\)](#)
- [サービス プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項 \(3 ページ\)](#)
- [インバンド サービス プロファイル \(4 ページ\)](#)
- [サービス プロファイル テンプレート \(13 ページ\)](#)
- [サービス プロファイル タスク \(19 ページ\)](#)
- [サービス プロファイルのアソシエーション \(33 ページ\)](#)
- [サービス プロファイルのブート定義 \(35 ページ\)](#)
- [サービス プロファイルのファイバチャネルゾーン分割 \(42 ページ\)](#)
- [サービス プロファイル テンプレートの管理 \(45 ページ\)](#)

## UCS Manager のサービス プロファイル

サービス プロファイルは、単一のサーバおよびそのストレージとネットワークの特性を定義します。Cisco UCS Manager および UCS Mini のサービス プロファイルを作成できます。サービス プロファイルがサーバに導入されると、UCS Manager は、サービス プロファイルで指定された設定に一致するよう、サーバ、アダプタ、ファブリック エクステンダ、ファブリック インターコネクトを自動的に設定します。

サービス プロファイルには、次の 4 種類の情報が含まれています。

- **[Server definition]** : プロファイルに適用するために必要なリソース（特定のシャーシに挿入された特定のサーバやブレード）を定義します。
- **[Identity information]** : UUID、各仮想 NIC（vNIC）の MAC アドレス、各 HBA の WWN 仕様が含まれます。
- **[Firmware revision specifications]** : 特定のテスト済みのファームウェア リビジョンをインストールする必要がある場合、またはその他の理由で特定のファームウェアを使用する必要がある場合に使用します。

- [Connectivity definition] : ネットワーク アダプタ、ファブリック エクステンダ、および親 インターコネクトを設定します。ただし、この情報には各ネットワーク コンポーネントの設定方法の詳細が含まれていないため抽象的です。

UCS システムは、サーバ ID を継承するサービス プロファイルとサーバ ID をオーバーライドするサービス プロファイルの 2 つのタイプのサービス プロファイルを提供しています。

## サーバ ID を上書きするサービス プロファイル

このタイプのサービス プロファイルにより、柔軟性と制御性が最大化されます。このプロファイルでは、アソシエーション時にサーバに設定されていた ID 値を上書きし、Cisco UCS Manager で設定されたリソース プールとポリシーを使用して一部の管理タスクを自動化できます。

このサービス プロファイルは、あるサーバとの関連付けを解除して、別のサーバに関連付けることができます。この再アソシエーションは手動で行うこともできますし、自動サーバプール ポリシーを通じて行うこともできます。UUID や MAC アドレスなど、新しいサーバの工場出荷時の設定は、サービス プロファイルでの設定で上書きされます。その結果、サーバでの変更はネットワークに対して透過的です。新しいサーバの使用を開始するために、ネットワークでコンポーネントやアプリケーションを再設定する必要はありません。

このプロファイルにより、次のようなリソース プールやポリシーを通じて、システム リソースを利用し、管理できるようになります。

- MAC アドレスのプール、WWN アドレス、UUID などの仮想 ID 情報
- イーサネットおよびファイバチャネル アダプタ プロファイル ポリシー
- ファームウェア パッケージ ポリシー
- オペレーティング システム ブート順序ポリシー

サービス プロファイルに電源管理ポリシー、サーバプール資格情報ポリシー、または特定のハードウェア設定が必要な別のポリシーが含まれていない場合は、そのサービス プロファイルを Cisco UCS ドメインのどのタイプのサーバにも使用できます。

これらのサービス プロファイルは、ラックマウント サーバまたはブレードサーバのどちらかに関連付けることができます。サービス プロファイルの移行の可否は、サービス プロファイルの移行制限を選択するかどうかによって決まります。



- (注) 移行を制限しない場合、既存のサービス プロファイルを移行する前に、Cisco UCS Manager による新規サーバの互換性チェックは実行されません。両方のハードウェアが似ていない場合、関連付けが失敗することがあります。

## サーバ ID を継承するサービス プロファイル

このハードウェアベースのサービスプロファイルは使用も作成も簡単です。このプロファイルは、サーバのデフォルト値を使用して、ラックマウント型サーバの管理を模倣します。これは特定のサーバに関連付けられているため、別のサーバへの移動や移行はできません。

このサービスプロファイルを使用するために、プールや設定ポリシーを作成する必要はありません。

このサービス プロファイルは、アソシエーション時に存在する次のような ID 情報および設定情報を継承し、適用します。

- 2 つの NIC の MAC アドレス
- 統合ネットワーク アダプタまたは仮想インターフェイス カードについては、2 つの HBA の WWN アドレス
- BIOS バージョン
- サーバの UUID



### 重要

このプロファイルをサーバに関連付ける前に、製造元でサーバのハードウェアに設定された値が変更された場合、このサービス プロファイルを通じて継承されたサーバの ID および設定情報は、この値とは異なる可能性があります。

## サービス プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項

サービス プロファイルまたはサービス プロファイル テンプレートに含まれるポリシー（ローカルディスク設定ポリシーなど）やプールに固有のガイドラインと推奨事項に加え、サービス プロファイルとサーバを関連付ける機能に影響する以下のガイドラインと推奨事項も順守してください。

### ラックマウント サーバで設定できる vNIC 数の制限

Cisco UCS Manager と統合されているラックマウント サーバでは、Cisco UCS P81E 仮想インターフェイスカード（N2XX-ACPCI01）などのサポート対象のアダプタごとに最大 56 の vNIC を設定できます。

### ラックマウント サーバの電力制限はサポート対象外

電力制限はラック サーバではサポートされません。ラックマウント サーバに関連付けられているサービス プロファイルに電力制御ポリシーを含めた場合、そのポリシーは実行されません。

### vNIC に関する QoS ポリシーのガイドライン

QoS ポリシーの優先順位の設定が **fc**（ファイバチャネル システム クラス）ではない場合にのみ、そのポリシーを vNIC に割り当てることができます。QoS ポリシーの優先順位に他のシステム クラスを設定できます。

### vHBA に関する QoS ポリシーのガイドライン

QoS ポリシーの優先順位の設定が **fc**（ファイバチャネル システム クラス）である場合にのみ、そのポリシーを vHBA に割り当てることができます。

QoS ポリシーのホスト制御設定は vNIC にのみ適用されます。vHBA には影響しません。

## インバンド サービス プロファイル

### インバンド サービス プロファイルの設定

この手順は、インバンド サービス プロファイルの作成方法を示しています。



- (注) Cisco UCS Manager GUI で、[Equipment] タブのサーバ CIMC を使用するようにアウトオブバンド設定を設定したすべての Cisco UCS M3 および M4 サーバは、インバンドプロファイルに従って、自動的にインバンド ネットワーク（VLAN）および IPv4/IPv6 設定を取得します。インバンドプロファイル設定からネットワークまたは IP プール名を削除すると、サーバのインバンド設定がインバンドプロファイルから取得された場合は、サーバからインバンド設定が削除されます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # <b>scope eth-uplink</b>	イーサネット アップリンクのコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-uplink # <b>scope inband-profile</b>	インバンドプロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /eth-uplink/inband-profile # <b>set net-group-name vlan-group-name</b>	インバンドプロファイルのネットワーク グループ名を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	UCS-A /eth-uplink/inband-profile* # <b>set default-vlan-name</b> <i>vlan-name</i>	インバンド プロファイルのデフォルト VLAN を設定します。
ステップ 5	UCS-A /eth-uplink/inband-profile* # <b>set default-pool-name</b> <i>pool-name</i>	インバンド プロファイルのデフォルト IP を設定します。
ステップ 6	UCS-A /eth-uplink/inband-profile* # <b>set monitor-interval</b> <i>interval</i>	監視期間を設定します。この期間が過ぎると、下位のファブリック インターコネクトへのフェールオーバーが行われます。1 ～ 5 秒の範囲で設定できます。
ステップ 7	UCS-A /eth-uplink/inband-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例では、インバンド サービス プロファイル inband-profile を作成し、ネットワーク グループ名を inband-vlan-group に、デフォルトの VLAN を Inband\_VLAN に、IP プールを inband\_default に、monitor-interval を 5 秒にそれぞれ設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A #scope eth-uplink
UCS-A /eth-uplink # scope inband-profile
UCS-A /eth-uplink/inband-profile # set net-group-name inband-vlan-group
UCS-A /eth-uplink/inband-profile* # set default-vlan-name Inband_VLAN
UCS-A /eth-uplink/inband-profile* # set default-pool-name inband_default
UCS-A /eth-uplink/inband-profile* # set monitor-interval 5
UCS-A /eth-uplink/inband-profile* # commit-buffer
UCS-A /eth-uplink/inband-profile #
```

## インバンド管理サービス プロファイルの設定

この手順は、インバンド管理サービス プロファイルを設定する方法について説明します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> /	組織コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>create service-profiles</b> <i>p-name</i>	指定されたサービス プロファイルを作成し、サービス プロファイルのコンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>create mgmt-iface</b> <i>in-band</i>	指定された管理インターフェイスを作成し、管理インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface # <b>create mgmt-vlan</b>	管理 VLAN を作成し、管理 VLAN コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	UCS-A/org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan # <b>set network-name</b> <i>network-name</i>	管理 VLAN のネットワーク名を設定します。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan # <b>create ext-pooled-ip</b>	外部 IP プールを作成し、IP プール コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip # <b>set name</b> <i>pool-name</i>	外部 IPv4 プールの名前を設定します。
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip # <b>exit</b>	IPv4 プール コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan # <b>create ext-pooled-ip6</b>	外部 IPv6 プールを作成し、IPv6 プール コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6 # <b>set name</b> <i>pool-name</i>	外部 IPv6 プールの名前を設定します。
ステップ 11	UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6 # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、サービス プロファイル名 `inband_sp` を作成して、`in-band` という名前の管理インターフェイスを設定し、管理 VLAN を作成して、ネットワーク名を `Inband_VLAN` に設定し、外部 IPv4 プールを作成してその名前を `inband_default` にし、外部 IP および外部 IPv6 管理プールを作成して、両方のプールの名前を `inband_default` に設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create service-profile inband_sp
UCS-A /org/service-profile* # create mgmt-iface in-band
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface* # create mgmt-vlan
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan* # set network-name Inband_VLAN
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan* # create ext-pooled-ip
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip* # set name inband_default
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip* # exit
```

```
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan* # create ext-pooled-ip6
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6* # set name inband_default
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6 # exit
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface/mgmt-vlan # exit
UCS-A /org/service-profile/mgmt-iface # exit
```

### 次のタスク

サーバにインバンド管理インターフェイスのサービス プロファイルを関連付けます。

## サービス プロファイルからのインバンド設定の削除

この手順では、サービス プロファイルからインバンド設定を削除する方法について説明します。



(注) デフォルト VLAN 名とデフォルト プール名を使用して Cisco UCS Manager でインバンド プロファイルが設定されると、サーバ CIMC は、サービス プロファイルから設定を削除後、1 分以内にインバンド プロファイルからインバンド設定を自動的に取得します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org /</b>	組織コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/org # <b>scope service-profile blade1</b>	組織プロファイルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/org/service-profile # <b>delete mgmt-iface in-band</b>	指定されたサービス プロファイルを削除します。
ステップ 4	UCS-A/org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、サービス プロファイル blade1 にスコープし、管理インターフェイス インバンドを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope service-profile blade1
UCS-A /org/service-profile # delete mgmt-iface in-band
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile
```

## CIMC でのインバンド管理の設定

この手順では、プールされた IP のサーバ CIMC 上でのインバンド管理を設定する方法について説明します。





(注)

インバンド管理 IP アドレスをスタティック IP アドレスに設定することは、インバンド管理 IP アドレスをプール済み IP アドレスに設定する手順と同様です。次の例では、in-band と命名したシャーシ 1 のサーバ 1 に管理インターフェイスを作成し、IPv4 および IPv6 の状態をスタティックに設定して、トランザクションをコミットします。この例では、さらに、管理 VLAN を作成し、外部スタティック IPv4 を作成して開き、外部スタティック IPv6 を作成して開いて、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A /chassis/server # scope cimc
UCS-A /chassis/server/cimc # create mgmt-iface in-band
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface* # set ipv4state static
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface* # set ipv6state static
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface # show detail

External Management Interface:
  Mode: In Band
  Ip V4 State: Static
  Ip V6 State: Static
  Is Derived from Inband Profile: No
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface # set
  ipv4state  IpV4State
  ipv6state  IpV6State
  mode      Mode

UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface # create mgmt-vlan
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan* # create ext-static-ip
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip* # set addr x.x.x.1
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip* # set subnet 255.255.255.0
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip* # set default-gw x.x.x.254
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip # up
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan # create ext-static-ip6
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip6* # set addr
xxxx:xxxx:xxxx:1::
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip6* # set default-gw
xxxx:xxxx:xxxx:1::0001
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip6* # set prefix 64
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip6* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-static-ip6 # up
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan # show detail expand

External Management Virtual LAN:
  Network Name:
  Id: 1

  External Management Static IP:
    IP Address: x.x.x.1
    Default Gateway: 10.193.1.254
    Subnet: 255.255.255.0
    Primary DNS IP: 0.0.0.0
    Secondary DNS IP: 0.0.0.0

  External Management Static IPv6:
    IP Address: xxxx:xxxx:xxxx:1::
    Default Gateway: xxxx:xxxx:xxxx:1::0001
    Prefix: 64
    Primary DNS IP: ::
    Secondary DNS IP: ::
```

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>chassi-numserver-num</i>	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>scope cimc</b>	CIMC コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server /chassis/server/cimc # <b>create mgmt-ifacein-band</b>	指定された管理インターフェイスを作成し、管理インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface* # <b>set ipv4state pooled</b>	IPv4 状態を pooled に設定します。
ステップ 5	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface*# <b>set ipv6state pooled</b>	IPv6 状態を pooled に設定します。
ステップ 6	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface* # <b>create mgmt-vlan</b>	管理 VLAN を作成し、管理 VLAN コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan* # <b>set network-name network-name</b>	管理 VLAN のネットワーク名を設定します。
ステップ 8	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan* # <b>create ext-pooled-ip</b>	外部 IPv4 プールを作成し、IPv4 プールコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 9	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip* # <b>set name pool-name</b>	外部 IPv4 プールの名前を設定します。
ステップ 10	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip* # <b>exit</b>	IPv4 プール コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 11	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan* # <b>create ext-pooled-ip6</b>	外部 IPv6 プールを作成し、IPv6 プールコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 12	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6* # <b>set name pool-name</b>	外部 IPv6 プールの名前を設定します。
ステップ 13	UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、in-band という名前のサーバ 1 のシャーシ 1 上で管理インターフェイスを作成し、IPv4 および IPv6 状態を pooled に設定して、管理 VLAN を作成し、ネットワーク名を Inband にして、外部 IPv4 プールを作成し、その名前を inband\_default に設定します。外部 IPv6 プールを作成してその名前を inband\_default に設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A /chassis/server # scope cimc
UCS-A /chassis/server/cimc # create mgmt-iface in-band
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface* # set ipv4state pooled
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface* # set ipv6state pooled
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface* # create mgmt-vlan
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan* # set network-name Inband
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan* # create ext-pooled-ip
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip* # set name Inband_default
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip* # exit
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan* # create ext-pooled-ip6
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6* # set name Inband_default

UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc/mgmt-iface/mgmt-vlan/ext-pooled-ip6 #
```

## CIMC からのインバンド設定の削除

この手順は、サーバ CIMC からインバンド設定を削除する方法について説明します。



- (注) デフォルト VLAN 名とデフォルト プール名を使用して Cisco UCS Manager でインバンド プロファイルが設定されると、サーバ CIMC は、サービス プロファイルから設定を削除後、1 分以内にインバンド プロファイルからインバンド設定を自動的に取得します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>chassi-numserver-num</i>	指定サーバのシャーシ サーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>scope cimc</b>	CIMC コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server /chassis/server/cimc # <b>delete mgmt-ifacein-band</b>	指定されたサービス プロファイルを削除します。
ステップ 4	UCS-A /chassis/server /chassis/server/cimc # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次に、server 1 の chassis1 から in-band という名前の管理インターフェイスを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A /chassis/server # scope cimc
UCS-A /chassis/server/cimc # delete mgmt-iface in-band
UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc #
```

# サービス プロファイル テンプレート

## サービス プロファイル テンプレートの作成

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/ を <i>org-name</i> として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>create service-profile</b> <i>profile-name</i> { <b>initial-template</b>   <b>updating-template</b> }	指定されたサービスプロファイルテンプレートを作成し、組織サービスプロファイルモードを開始します。  このサービスプロファイルテンプレートを識別する一意の <i>profile-name</i> を入力します。  この名前には、2 ～ 32 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。この名前は、同じ組織内のすべてのサービス プロファイルおよびサービスプロファイルテンプレートで一意であることが必要です。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>set bios-policy</b> <i>policy-name</i>	指定された BIOS ポリシーをサービスプロファイルに関連付けます。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>set boot-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたブートポリシーをサービスプロファイルに関連付けます。

14

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>製造時にハードウェアに焼き付けられた UUID を取得する。</li> <li>UUID プールを使用する。</li> <li>一意の WWNN を <code>hh : hh : hh : hh : hh : hh</code> の形式で作成します。</li> <li>製造時にハードウェアに焼き付けられた WWNN を取得する。</li> <li>WWNN プールを使用する。</li> </ul>
ステップ 10	UCS-A /org/service-profile # <b>set ipmi-access-profile</b> <i>profile-name</i>	指定された IPMI アクセス プロファイル サービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 11	UCS-A /org/service-profile # <b>set lan-connectivity-policy-name</b> <i>policy-name</i>	<p>サービス プロファイルに指定された LAN 接続ポリシーに関連付けます。</p> <p>(注) LAN 接続ポリシーとローカルで作成された vNIC を同じ サービス プロファイルに含めることはできません。LAN 接続ポリシーをサービス プロファイルに追加すると、すべての既存の vNIC 設定が消去されます。</p>
ステップ 12	UCS-A /org/service-profile # <b>set local-disk-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたローカルディスク ポリシー サービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 13	UCS-A /org/service-profile # <b>set maint-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたメンテナンス ポリシー サービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 14	UCS-A /org/service-profile # <b>set mgmt-fw-policy</b> <i>policy-name</i>	指定された管理ファームウェア ポリシー サービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 15	UCS-A /org/service-profile # <b>set power-control-policy</b> <i>policy-name</i>	指定された電源管理ポリシー サービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 16	UCS-A /org/service-profile # <b>set san-connectivity-policy-name</b> <i>policy-name</i>	指定された SAN 接続ポリシー サービス プロファイルに関連付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) SAN接続ポリシーとローカルで作成された vHBA を同じサービスプロファイルに含めることはできません。SAN接続ポリシーをサービス プロファイルに追加すると、すべての既存の vHBA 設定が消去されます。
ステップ 17	UCS-A /org/service-profile # <b>set scrub-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたスクラブポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 18	UCS-A /org/service-profile # <b>set sol-policy</b> <i>policy-name</i>	指定した Serial over LAN ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 19	UCS-A /org/service-profile # <b>set stats-policy</b> <i>policy-name</i>	指定された統計情報ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 20	UCS-A /org/service-profile # <b>set user-label</b> <i>label-name</i>	サービスプロファイルに関連付けられたユーザラベルを指定します。
ステップ 21	UCS-A /org/service-profile # <b>set vcon</b> {1   2} <b>selection</b> {all   assigned-only   exclude-dynamic   exclude-unassigned}	指定された vCon に選択プリファレンスを指定します。
ステップ 22	UCS-A /org/service-profile # <b>set vcon-profile</b> <i>policy-name</i>	指定された vNIC/vHBA 配置プロファイルをサービスプロファイルに関連付けます。  (注) サービス プロファイルに vNIC/vHBA 配置プロファイル割り当てるか、またはサービス プロファイルに vCon 選択プリファレンスを設定することができますが、両方を実行する必要はありません。
ステップ 23	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。



## 例

次の例は、サービスプロファイルテンプレートを作成してトランザクションをコミットする方法を示しています。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create service-profile ServTemp2 updating-template
UCS-A /org/service-profile* # set bios-policy biospol1
UCS-A /org/service-profile* # set boot-policy bootpol32
UCS-A /org/service-profile* # set descr "This is a service profile example."
UCS-A /org/service-profile* # set dynamic-vnic-conn-policy mydynvnicconnpolicy
UCS-A /org/service-profile* # set ext-mgmt-ip-state pooled
UCS-A /org/service-profile* # set host-fw-policy ipmi-user987
UCS-A /org/service-profile* # set identity dynamic-uuid derived
UCS-A /org/service-profile* # set ipmi-access-profile ipmiProf16
UCS-A /org/service-profile* # set local-disk-policy localdiskpol33
UCS-A /org/service-profile* # set maint-policy maintpol4
UCS-A /org/service-profile* # set mgmt-fw-policy mgmtfwpol175
UCS-A /org/service-profile* # set power-control-policy powcontrpol13
UCS-A /org/service-profile* # set scrub-policy scrubpol55
UCS-A /org/service-profile* # set sol-policy solpol2
UCS-A /org/service-profile* # set stats-policy statspol4
UCS-A /org/service-profile* # set user-label mylabel
UCS-A /org/service-profile* # vcon-policy myvconnpolicy
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## 次のタスク

- (任意) サービスプロファイルのブート定義を設定します。サービスプロファイルにブートポリシーが関連付けられていない場合に限り、このオプションを使用します。
- サービスプロファイルテンプレートからサービスプロファイルインスタンスを作成します。

# サービス プロファイル テンプレートからのサービス プロファイル インスタンスの作成

## 始める前に

サービスプロファイルのインスタンスの作成元になるサービスプロファイルテンプレートがあることを確認します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /org # <b>create service-profile</b> <i>profile-name instance</i>	<p>指定したサービス プロファイル インスタンスを作成し、組織サービス プロファイル モードを開始します。</p> <p>このサービス プロファイル テンプレートを識別する一意の <i>profile-name</i> を入力します。</p> <p>この名前には、2 ～ 32 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。この名前は、同じ組織内のすべてのサービス プロファイルおよびサービス プロファイル テンプレートで一意である必要があります。</p>
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>set</b> <b>src-templ-name</b> <i>profile-name</i>	元になるサービス プロファイル テンプレートを指定してサービス プロファイル インスタンスに適用します。サービス プロファイル テンプレートからのすべての設定が、サービス プロファイル インスタンスに適用されます。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は、ServProf34 という名前のサービス プロファイル インスタンスを作成し、ServTemp2 という名前のサービス プロファイル テンプレートを適用し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create service-profile ServProf34 instance
UCS-A /org/service-profile* # set src-templ-name ServTemp2
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

### 次のタスク

サーバ、ラック サーバ、またはサーバ プールにサービス プロファイルを関連付けます。

# サービス プロファイル タスク

## サービス プロファイルの名前の変更

サービス プロファイルの名前を変更すると、次のことが起こります。

- サービス プロファイルの以前の名前を参照するイベント ログと監査ログは、その名前のまま保持されます。
- 名前変更の操作を記録する、新しい監査データが作成されます。
- サービス プロファイルの以前の名前で生じたすべての障害データは、新しいサービス プロファイル名に転送されます。



(注) 保留中の変更があるサービス プロファイルの名前は変更できません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <b>org-name</b> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile profile-name</b>	指定したサービスで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>rename-to new-profile-name</b>	<p>指定されたサービス プロファイルの名前を変更します。</p> <p>このコマンドを入力すると、CLI セッションのコミットされていないすべての変更が失われることがあるという警告がされます。続行するには確認のため <b>y</b> を入力します。</p> <p>この名前には、2 ～ 32 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。この名前は、同じ組織内のすべてのサービス プロファイルおよびサービス</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		プロファイルテンプレートで一意である必要があります。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/ # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

#### 例

次に、ServInst90 から ServZoned90 にサービス プロファイル名を変更し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile* # rename-to ServZoned90
Rename is a standalone operation. You may lose any uncommitted changes in this CLI session.
Do you want to continue? (yes/no): y
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## ハードウェアベースのサービス プロファイルの作成

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>create service-profile profile-name instance</b>	<p>指定したサービスプロファイルインスタンスを作成し、組織サービス プロファイルモードを開始します。</p> <p>このサービスプロファイルを特定する一意の <i>profile-name</i> を入力します。</p> <p>この名前には、2 ～ 32 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。この名前は、同じ組織内のすべてのサービス プロファイルおよびサービスプロファイルテンプレートで一意である必要があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>set bios-policy</b> <i>policy-name</i>	指定された BIOS ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>set boot-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたブートポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 5	(任意) UCS-A /org/service-profile # <b>set descr</b> <i>description</i>	サービス プロファイルに説明を記入します。  (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明の前後に引用符を付ける必要があります。引用符は、 <b>show</b> コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile # <b>set dynamic-vnic-conn-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたダイナミック vNIC 接続ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile # <b>set ext-mgmt-ip-state</b> { <b>none</b>   <b>pooled</b>   <b>static</b> }	管理 IP アドレスをサービス プロファイルに割り当てる方法を指定します。  次のオプションを使用して管理 IP アドレス ポリシーを設定できます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• [None] : サービス プロファイルには IP アドレスが割り当てられません。</li> <li>• [Pooled] : サービス プロファイルには、管理 IP プールから IP アドレスが割り当てられます。</li> <li>• [Static] : サービス プロファイルには、設定されたスタティック IP アドレスが割り当てられます。</li> </ul>
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile # <b>set host-fw-policy</b> <i>ipmi-user-name</i>	指定されたホスト転送ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 9	UCS-A /org/service-profile # <b>set identity</b> { <b>dynamic-uuid</b> { <i>uuid</i>   <b>derived</b> }   <b>dynamic-wwnn</b> { <i>wwnn</i>   <b>derived</b> }   <b>uuid-pool</b> <i>pool-name</i>   <b>wwnn-pool</b> <i>pool-name</i> }	サーバが UUID または WWNN を取得する方法を指定します。次のいずれかを実行できます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>一意の UUID を <code>nnnnnnnnn-nnnnn-nnnnn-nnnnnnnnnnnnnnn</code> 形式で作成する。</li> <li>製造時にハードウェアに焼き付けられた UUID を取得する。</li> <li>UUID プールを使用する。</li> <li>一意の WWNN を <code>hh : hh : hh : hh : hh : hh : hh : hh</code> の形式で作成します。</li> <li>製造時にハードウェアに焼き付けられた WWNN を取得する。</li> <li>WWNN プールを使用する。</li> </ul>
ステップ 10	UCS-A /org/service-profile # <b>set ipmi-access-profile</b> <i>profile-name</i>	指定された IPMI アクセス プロファイル をサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 11	UCS-A /org/service-profile # <b>set local-disk-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたローカルディスク ポリシー をサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 12	UCS-A /org/service-profile # <b>set maint-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたメンテナンス ポリシー をサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 13	UCS-A /org/service-profile # <b>set mgmt-fw-policy</b> <i>policy-name</i>	指定された管理転送ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 14	UCS-A /org/service-profile # <b>set power-control-policy</b> <i>policy-name</i>	指定された電源管理ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 15	UCS-A /org/service-profile # <b>set scrub-policy</b> <i>policy-name</i>	指定されたスクラブポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 16	UCS-A /org/service-profile # <b>set sol-policy</b> <i>policy-name</i>	指定した Serial over LAN ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 17	UCS-A /org/service-profile # <b>set stats-policy</b> <i>policy-name</i>	指定された統計情報ポリシーをサービス プロファイルに関連付けます。
ステップ 18	UCS-A /org/service-profile # <b>set user-label</b> <i>label-name</i>	サービス プロファイルに関連付けられたユーザ ラベルを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 19	UCS-A /org/service-profile # <b>set vcon {1   2} selection {all   assigned-only   exclude-dynamic   exclude-unassigned}</b>	指定された vCon に選択プリファレンスを指定します。
ステップ 20	UCS-A /org/service-profile # <b>set vcon-policy policy-name</b>	指定された vNIC/vHBA 配置ポリシーをサーバ プロファイルに関連付けます。  (注) サービス プロファイルに vNIC/vHBA 配置プロファイル割り当てるか、またはサービス プロファイルに vCon 選択プリファレンスを設定することができますが、両方を実行する必要はありません。
ステップ 21	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例は、サービスプロファイルインスタンスを作成してトランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create service-profile ServInst90 instance
UCS-A /org/service-profile* # set bios-policy biospol1
UCS-A /org/service-profile* # set boot-policy bootpol32
UCS-A /org/service-profile* # set descr "This is a service profile example."
UCS-A /org/service-profile* # set ext-mgmt-ip-state pooled
UCS-A /org/service-profile* # set host-fw-policy ipmi-user987
UCS-A /org/service-profile* # set identity dynamic-uuid derived
UCS-A /org/service-profile* # set ipmi-access-profile ipmiProf16
UCS-A /org/service-profile* # set local-disk-policy localdiskpol133
UCS-A /org/service-profile* # set maint-policy maintpol14
UCS-A /org/service-profile* # set mgmt-fw-policy mgmtfwpol175
UCS-A /org/service-profile* # set power-control-policy powcontrpol113
UCS-A /org/service-profile* # set scrub-policy scrubpol55
UCS-A /org/service-profile* # set sol-policy solpol2
UCS-A /org/service-profile* # set stats-policy statspol4
UCS-A /org/service-profile* # set user-label mylabel
UCS-A /org/service-profile* # vcon-policy myvconnpolicy
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## 次のタスク

- (任意) サービスプロファイルのブート定義を設定します。サービスプロファイルにブートポリシーが関連付けられていない場合に限り、このオプションを使用します。

- ブレード サーバ、サーバ プール、ラック サーバとサービス プロファイルに関連付けます。

## サービス プロファイルでの vNIC ペアの作成

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A /org # <b>scope</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として「org」を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>service profile name</i>	vNIC ペアを作成するサービス プロファイルの名前を入力します。
ステップ 3	UCS-A /org # scope service-profile <b>create vnic</b> <i>eth0</i>	冗長ペアを作成する vNIC に名前を割り当てます。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/vnic* # <b>set template-name</b> <i>vNIC-primary</i>	サービス プロファイル レベルで vNIC ペアを作成するため、セカンダリ vNIC テンプレートにリンクできるプライマリ vNIC テンプレートを使用するように指定します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/vnic* # <b>exit</b>	vNIC ペアを作成するために使用するプライマリ vNIC テンプレートを終了します。  (注) vNIC <i>eth0</i> にリンクするのに、ピア vNIC を作成できるようになりました。vNIC ペアを作成するため、vNIC <i>eth0</i> を vNIC <i>eth1</i> にリンクした後、トランザクションのコミットを確認します。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile # <b>create vnic</b> <i>eth1</i>	vNIC <i>eth0</i> にリンクするペアを作成するために、ピア vNIC を作成する vNIC に名前を割り当てます。
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile/vnic* <b>set template-name</b> <i>vNIC secondary</i>	サービス プロファイル レベルで使用できる vNIC ペアを作成するため、セカンダリ vNIC テンプレートをピア テンプレートとしてプライマリ vNIC テンプレートに使用するように指定します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile/vnic* # <b>exit</b>	vNIC ペアを作成するために使用するセカンダリ vNIC テンプレートを終了します。
ステップ 9	UCS-A /org/service-profile* # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、サービスプロファイルから vNIC 冗長ペアを作成し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A # scope org
UCS-A /org # scope service-profile test-sp
UCS-A /org/service-profile # create vNIC eth0
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set template-name vNIC-primary
UCS-A /org/service-profile/vnic* # exit
UCS-A /org/service-profile* # create vNIC eth1
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set template-name vNIC-secondary
UCS-A /org/service-profile/vnic* # exit
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## サービス プロファイルの vNIC の設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/ を <i>org-name</i> として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスプロファイルで組織サービスプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>create vnic</b> <i>vnic-name</i> [ <i>eth-if</i> <i>eth-if-name</i> ] [ <i>fabric</i> { <i>a</i>   <i>b</i> }]	指定したサービスプロファイルの vNIC を作成し、組織サービスプロファイルの vNIC モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set adapter-policy</b> <i>policy-name</i>	vNIC に使用するアダプタ ポリシーを指定します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set fabric</b> { <i>a</i>   <i>a-b</i>   <i>b</i>   <i>b-a</i> }	vNIC に使用するファブリックを指定します。vNIC テンプレートを作成すると

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>きにステップ 3 でファブリックを指定しなかった場合、このコマンドで指定するオプションがあります。</p> <p>デフォルトのファブリックインターコネクトが使用できない場合に、この vNIC が第 2 のファブリック インターコネクトにアクセスできるようにするには、<b>a-b</b> (A がプライマリ) または <b>b-a</b> (B がプライマリ) を選択します。</p> <p>(注) 次の状況下では、vNIC のファブリック フェールオーバーを有効にしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco UCS ドメイン がイーサネット スイッチ モードで動作している場合、そのモードでは vNIC ファブリック フェールオーバーがサポートされません。1 つのファブリックインターコネクト上のすべてのイーサネットアップリンクが障害になった場合、vNIC は他のイーサネットアップリンクにフェールオーバーしません。</li> <li>• Cisco UCS 82598KR-CI 10-Gigabit Ethernet Adapter など、ファブリックフェールオーバーをサポートしないアダプタがあるサーバにこの vNIC を関連付ける予定である場合。選択した場合、サービスプロファイルとサーバとのアソシエーションを形成したときに、Cisco UCS Manager により、設定エラーが生成されます。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set identity</b> { <b>dynamic-mac</b> { <i>mac-addr</i>   <b>derived</b> }   <b>mac-pool</b> <i>mac-pool-name</i> }	<p>vNIC の ID (MAC アドレス) を指定します。次のいずれかのオプションを使用して識別を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一意の MAC アドレスを <i>nn : nn : nn : nn : nn</i> の形式で作成します。</li> <li>製造時にハードウェアに焼き付けられた MAC アドレスを取得する。</li> <li>MAC プールから MAC アドレスを割り当てる。</li> </ul>
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set mtu size-num</b>	<p>この vNIC で受け入れられる最大伝送単位、つまりパケット サイズ。</p> <p>1500 ~ 9216 の範囲の整数を入力します。</p> <p>(注) vNIC に対応する QoS ポリシーがある場合、ここで指定した MTU は、関連付けられた QoS システム クラスで指定された MTU と同等以下でなければなりません。この MTU 値が QoS システム クラスの MTU 値を超えている場合、データ転送中にパケットがドロップされる可能性があります。</p>
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set nw-control-policy</b> <i>policy-name</i>	vNIC によって使用されるネットワーク制御ポリシー。
ステップ 9	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set order</b> { <i>order-num</i>   <b>unspecified</b> }	vNIC に相対順序を指定します。
ステップ 10	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set pin-group</b> <i>group-name</i>	vNIC によって使用される LAN ピン グループ。
ステップ 11	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set qos-policy</b> <i>policy-name</i>	vNIC によって使用されるサービス ポリシーの品質。
ステップ 12	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set stats-policy</b> <i>policy-name</i>	vNIC によって使用される統計情報収集ポリシー。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 13	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set template-name</b> <i>policy-name</i>	ダイナミック vNIC 接続ポリシーを vNIC に使用するよう指定します。
ステップ 14	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set vcon</b> {1   2   3   4   any}	指定された vCon に vNIC を割り当てます。Cisco UCS Manager が自動で vNIC を割り当てるようにするには、 <b>any</b> キーワードを使用します。
ステップ 15	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は、サービス プロファイルの vNIC を設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile* # create vnic vnic3 fabric a
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set adapter-policy AdaptPol2
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set fabric a-b
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set identity mac-pool MacPool3
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set mtu 8900
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set nw-control-policy ncp5
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set order 0
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set pin-group EthPinGroup12
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set qos-policy QosPol5
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set stats-policy StatsPol2
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set template-name VnicConnPol3
UCS-A /org/service-profile/vnic* # set set vcon any
UCS-A /org/service-profile/vnic* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/vnic #
```

## サービス プロファイルの vHBA の設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>create vhma</b> <i>vhba-name</i> [ <i>fabric</i> {a   b}] [ <i>fc-if</i> <i>fc-if-name</i> ]	指定したサービス プロファイル用の vHBA を作成し、組織サービス プロ

	コマンドまたはアクション	目的
		ファイルの vHBA モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set adapter-policy</b> <i>policy-name</i>	vHBA に対し使用するアダプタ ポリシーを指定します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set admin-vcon</b> {1   2   any}	vHBA を 1 つまたはすべての仮想ネットワーク インターフェイス接続に割り当てます。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set identity</b> {dynamic-wwpn {wwpn   derived}   wwpn-pool <i>wwn-pool-name</i> }	<p>vHBA の WWPN を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを使用してストレージ ID を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一意の WWPN を <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> 形式で作成します。</li> </ul> <p>WWPN は、20:00:00:00:00:00:00:00 ～ 20:FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF または 50:00:00:00:00:00:00:00 ～ 5F:FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF の範囲内で指定できます。</p> <p>WWPN に Cisco MDS ファイバチャネル スイッチと互換性を持たせる場合は、WWPN テンプレート <b>20:00:00:25:B5:XX:XX:XX</b> を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製造時にハードウェアに焼き付けられた WWPN から WWPN 取得する。</li> <li>WWN プールから WWPN を割り当てる。</li> </ul>
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set max-field-size</b> <i>size-num</i>	vHBA がサポートするファイバチャネル フレーム ペイロードの最大サイズ (バイト数) を指定します。
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set order</b> {order-num   unspecified}	vHBA の PCI スキャン順序を指定します。
ステップ 9	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set pers-bind</b> {disabled   enabled}	ファイバチャネル ターゲットに対する永続的なバインディングを無効または有効にします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set pin-group</b> <i>group-name</i>	vHBA に使用する SAN ピン グループを指定します。
ステップ 11	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set qos-policy</b> <i>policy-name</i>	vHBA に対し使用する QoS ポリシーを指定します。
ステップ 12	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set stats-policy</b> <i>policy-name</i>	vHBA に使用する統計情報しきい値ポリシーを指定します。
ステップ 13	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set template-name</b> <i>policy-name</i>	vHBA に使用する vHBA テンプレートを指定します。
ステップ 14	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、サービス プロファイル用の vHBA を設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile* # create vhba vhba3 fabric b
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set adapter-policy AdaptPol2
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set admin-vcon any
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set identity wwpn-pool SanPool7
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set max-field-size 2112
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set order 0
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set pers-bind enabled
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set pin-group FcPinGroup12
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set qos-policy QosPol5
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set stats-policy StatsPol2
UCS-A /org/service-profile/vhba* # set template-name SanConnPol3
UCS-A /org/service-profile/vhba* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/vhba #
```

## サービス プロファイルのローカル ディスクの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスプロファイルで組織サービスプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>create</b> <b>local-disk-config</b>	サービスプロファイルのローカルディスク設定を作成し、組織サービスプロファイルのローカルディスク コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	(任意) UCS-A /org/service-profile/local-disk-config # <b>set</b> <b>descr</b> <i>description</i>	ローカルディスク設定に説明を記入します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/local-disk-config # <b>set</b> <b>mode</b> { <b>any-configuration</b>   <b>no-local-storage</b>   <b>no-raid</b>   <b>raid-0-striped</b>   <b>raid-1-mirrored</b>   <b>raid-5-striped-parity</b>   <b>raid-6-striped-dual-parity</b>   <b>raid-10-mirrored-and-striped</b> }	ローカルディスクのモードを指定します。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/local-disk-config # <b>create partition</b>	ローカルディスクのパーティションを作成し、組織サービスプロファイルのローカルディスク設定パーティションモードを開始します。
ステップ 7	(任意) UCS-A /org/service-profile/local-disk-config/partition # <b>set descr</b> <i>description</i>	パーティションの説明を記します。
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile/local-disk-config/partition # <b>set size</b> { <i>size-num</i>   <b>unspecified</b> }	パーティションのサイズを MB 単位で指定します。
ステップ 9	UCS-A /org/service-profile/local-disk-config/partition # <b>set type</b> { <b>ext2</b>   <b>ext3</b>   <b>fat32</b>   <b>none</b>   <b>ntfs</b>   <b>swap</b> }	パーティションタイプを指定します。
ステップ 10	UCS-A /org/service-profile/local-disk-config/partition # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例は、サービスプロファイルのローカルディスクを設定し、トランザクションをコミットします。

```

UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile # scope boot-definition
UCS-A /org/service-profile # create local-disk-config
UCS-A /org/service-profile/local-disk-config* # set mode raid-1-mirrored
UCS-A /org/service-profile/local-disk-config* # create partition
UCS-A /org/service-profile/local-disk-config/partition* # set size 1000000
UCS-A /org/service-profile/local-disk-config/partition* # set type ntfs
UCS-A /org/service-profile/local-disk-config/partition* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/local-disk-config/partition #

```

## サービス プロファイルの **Serial over LAN** の設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>create sol-config</b>	サービス プロファイルの <b>Serial over LAN</b> 設定を作成し、組織サービス プロファイルの SoL コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/sol-config # <b>{disable   enable}</b>	サービス プロファイルの <b>Serial over LAN</b> 設定を無効または有効にします。
ステップ 5	(任意) UCS-A /org/service-profile/sol-config # <b>set descr</b> <i>description</i>	<b>Serial over LAN</b> 設定に説明を加えます。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/sol-config # <b>set speed</b> {115200   19200   38400   57600   9600}	シリアル ボー レートを指定します。
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile/sol-config # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は、ServInst90 という名前のサービス プロファイルに **Serial over LAN** を設定し、トランザクションをコミットします。



```

UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile # create sol-config
UCS-A /org/service-profile/sol-config* # enable
UCS-A /org/service-profile/sol-config* # set descr "Sets serial over LAN to 9600 baud."
UCS-A /org/service-profile/sol-config* # set speed 9600
UCS-A /org/service-profile/sol-config* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/sol-config #

```

## サービス プロファイルのアソシエーション

### ブレード サーバまたはサーバ プールとのサービス プロファイルの関連付け

作成時にサービス プロファイルとブレード サーバまたはサーバ プールを関連付けなかった場合、またはサービス プロファイルを関連付けるブレード サーバまたはサーバ プールを変更する場合には、次の手順を実行します。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>associate</b> { <b>server chassis-id</b> / <b>slot-id</b>   <b>server-pool</b> <i>pool-name qualifier</i> } [ <b>restrict-migration</b> ]	サービス プロファイルを単一のサーバに関連付けます。または、指定したサーバプール ポリシー資格情報を使用して、指定したサーバプールに関連付けます。  オプションの <b>restrict-migration</b> キーワードを追加すると、サービス プロファイルは別のサーバに移行されません。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次に、ServProf34 という名前のサービス プロファイルとシャーシ1のスロット4のサーバを関連付け、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile* # associate server 1/4
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## サービス プロファイルとラック サーバの関連付け

作成時にサービス プロファイルをラック サーバを関連付けなかった場合、またはサービス プロファイルを関連付けるラック サーバを変更する場合には、次の手順を実行します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>associate server</b> <i>serv-id</i> [ <b>restrict-migration</b> ]	サービス プロファイルと指定したラック サーバを関連付けます。  オプションの <b>restrict-migration</b> コマンドを追加すると、サービス プロファイルは別のサーバに移行されません。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次に、ServProf34 という名前のサービス プロファイルとラック サーバ1を関連付け、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile* # associate server 1
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## サービス プロファイルとサーバまたはサーバ プールの関連付け解除

この手順では、サービス プロファイルとブレードサーバ、ラックサーバ、またはサーバ プールの関連付け解除について説明します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織 サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>disassociate</b>	サービス プロファイルとサーバまたはサーバプールの関連付けを解除します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、ServProf34 という名前のサービス プロファイルとサーバの関連付けを解除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # disassociate
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## サービス プロファイルのブート定義

### サービス プロファイルのブート定義の設定

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>create boot-definition</b>	サービス プロファイルのブート定義を作成し、組織サービス プロファイルのブート定義モードを開始します。
ステップ 4	(任意) UCS-A /org/service-profile/boot-definition # <b>set descr</b> <i>description</i>	ブート定義の説明を記入します。
ステップ 5	(任意) UCS-A /org/service-profile/boot-definition # <b>set reboot-on-update</b> {no   yes}	ブート順に変更を加えた後に、このブート定義を使用するすべてのサーバを自動的にリブートするかどうかを指定します。デフォルトでは、reboot on update オプションは無効になっています。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/boot-definition # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例は、サービス プロファイルのブート定義を設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile* # create boot-definition
UCS-A /org/service-profile/boot-definition* # set descr "This boot definition reboots on update."
UCS-A /org/service-profile/boot-definition* # set reboot-on-update yes
UCS-A /org/service-profile/boot-definition* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/boot-definition #
```

## 次のタスク

次の 1 つ以上のオプションをブート定義に設定し、ブート順序を設定します。

- **LAN Boot** : 中央集中型プロビジョニングサーバからブートします。これは、このサーバから、別のサーバ上にオペレーティングシステムをインストールするためによく使用されます。

LAN Boot オプションを選択した場合は、[サービス プロファイル ブート定義の LAN ブートの設定 \(37 ページ\)](#) に進みます。

- **Storage Boot** : SAN 上のオペレーティングシステム イメージからブートします。プライマリおよびセカンダリ SAN ブートを指定できます。プライマリ ブートが失敗した場合、サーバはセカンダリからのブートを試行します。

システムに最高のサービス プロファイル モビリティを提供する SAN ブートの使用を推奨します。SAN からブートした場合、あるサーバから別のサーバにサービス プロファイルを移動すると、移動後のサーバは、まったく同じオペレーティング システム イメージからブートします。したがって、ネットワークからは、この新しいサーバはまったく同じサーバと認識されます。

Storage Boot オプションを選択した場合は、[サービス プロファイル ブート定義のストレージブートの設定 \(38 ページ\)](#) に進みます。

- **Virtual Media Boot** : サーバへの物理 CD の挿入を模倣します。これは通常、サーバ上にオペレーティング システムを手動でインストールする場合に使用されます。

Virtual Media Boot オプションを選択した場合は、[サービス プロファイル ブート定義の仮想メディア ブートの設定 \(40 ページ\)](#) に進みます。

## サービス プロファイル ブート定義の LAN ブートの設定

始める前に

サービス プロファイルのブート定義を設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>scope boot-definition</b>	組織サービス プロファイルのブート定義モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/boot-definition # <b>create lan</b>	サービス プロファイルのブート定義に LAN ブートを作成し、サービス プロファイルのブート定義 LAN モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan # <b>set order</b> {1   2   3   4}	LAN ブートのブート順序を指定します。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan # <b>create path</b> {primary   secondary}	プライマリまたはセカンダリ LAN ブートパスを作成し、サービス プロファイルのブート定義 LAN パス モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan/path # <b>set vnic</b> <i>vnic-name</i>	LAN イメージパスに使用する vNIC を指定します。
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan/path # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は、ServInst90 という名前のサービス プロファイルに入り、サービス プロファイルのブート定義に LAN ブートを作成し、ブート順序を 2 に設定して、プライマリパスを作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile* # scope boot-definition
UCS-A /org/service-profile/boot-definition* # create lan
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan* # set order 2
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan* # create path primary
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan/path* # set vnic vnic3
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan/path* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/lan/path #
```

## サービス プロファイル ブート定義のストレージ ブートの設定

### 始める前に

サービス プロファイルのブート定義を設定します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>scope</b> <b>boot-definition</b>	組織サービス プロファイルのブート定義モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/boot-definition # <b>create storage</b>	サービス プロファイルのブート定義にストレージブートを作成し、サービス プロファイルのブート定義ストレージモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage # <b>set order</b> {1   2   3   4}	ストレージブートのブート順序を指定します。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage # <b>create</b> {local   san-image {primary   secondary}}	ローカルストレージブートまたはSAN イメージブートを作成します。SAN イメージブートが作成されると、サービス プロファイルのブート定義ストレージ SAN イメージモードを開始します。
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image # <b>create path</b> {primary   secondary}	プライマリまたはセカンダリ SAN イメージパスを作成し、サービス プロファイルのブート定義ストレージ SAN イメージパス モードを開始します。  Cisco UCS M3サーバ、またはM4サーバで拡張ブート順序を使用する場合は、定義したブート順序が使用されます。標準ブートモードでは、「プライマリ」、「セカンダリ」という用語が使用されている場合これはブート順序を示すものではありません。同じデバイスクラス内での実際のブート順序は、PCIe バス スキャン順序により決定されます。
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path # <b>set lun</b> lun-num	SAN イメージパスに使用される LUN を指定します。
ステップ 9	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path # <b>set vhba</b> vhba-name	SAN イメージパスに使用される vHBA を指定します。
ステップ 10	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path # <b>set wwn</b> wwn-num	SAN イメージパスに使用される WWN を指定します。
ステップ 11	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例は、ServInst90 という名前のサービス プロファイルに入り、サービス プロファイルのブート定義にストレージブートを作成し、ブート順序を 2 に設定して、プライマリ パスを作成し、トランザクションをコミットします。

```

UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile* # scope boot-definition
UCS-A /org/service-profile/boot-definition* # create storage
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage* # create san-image primary
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage* # set order 2
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image* # create path primary
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path* # set lun 27512
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path* # set vhba vhba3
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path* # set wwn
20:00:00:00:20:00:00:23
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/storage/san-image/path #

```

## サービス プロファイル ブート定義の仮想メディア ブートの設定

始める前に

サービス プロファイルのブート定義を設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>scope boot-definition</b>	組織サービス プロファイルのブート定義モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/boot-definition # <b>create virtual-media</b> { <b>read-only</b>   <b>read-write</b> }	サービス プロファイル ブート定義に読み取り専用または読み取りと書き込みの仮想メディア ブートを作成し、サービス プロファイルのブート定義仮想メディア モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/virtual-media # <b>set order</b> { <b>1</b>   <b>2</b>   <b>3</b>   <b>4</b> }	仮想メディア ブートのブート順序を指定します。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/boot-definition/virtual-media # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。



## 例

次の例は、ServInst90 という名前のサービス プロファイルに入り、サービス プロファイルのブート定義に読み取り専用権限で仮想メディアブートを作成し、ブート順序を 3 に設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile* # scope boot-definition
UCS-A /org/service-profile/boot-definition* # create virtual-media read-only
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/virtual-media* # set order 3
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/virtual-media* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/boot-definition/virtual-media #
```

## サービス プロファイルのブート定義の削除

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>delete boot-definition</b>	サービス プロファイルのブート定義を削除します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次に、サービス プロファイルのブート定義を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile # delete boot-definition
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

# サービス プロファイルのファイバチャネル ゾーン分割

## 既存のストレージ接続ポリシーでの vHBA イニシエータ グループの設定

この手順では、既存のグローバル ファイバチャネル ストレージ接続ポリシーを使用すると想定されています。このサービスプロファイルに対してのみストレージ接続ポリシー定義を作成する場合は、[ローカルストレージ接続ポリシー定義を持つ vHBA イニシエータ グループの設定 \(43 ページ\)](#) を参照してください。

すべてのサービスプロファイルで利用できるグローバル ファイバチャネル ストレージ接続ポリシーを作成する方法については、「[Creating a Fibre Channel Storage Connection Policy](#)」を参照してください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織 サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>create initiator-group</b> <i>group-name</i>	ファイバチャネル ゾーン分割の指定イニシエータ グループを作成し、サービス プロファイルのイニシエータ グループモードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/initiator-group # <b>create initiator</b> <i>vhba-name</i>	イニシエータ グループの指定 vHBA イニシエータを作成します。  必要に応じて、この手順を繰り返しグループに2番めのvHBAを追加します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/initiator-group # <b>set storage-connection-policy</b> <i>policy-name</i>	サービス プロファイルに指定されたストレージ接続ポリシーを関連付けます。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、ServInst90 という名前のサービス プロファイルに対し 2 つの vHBA イニシエータを持つ initGroupZone1 という名前の vHBA イニシエータ グループを設定し、既存のファイバチャネルストレージ接続ポリシーを保持し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile # create initiator-group initGroupZone1
UCS-A /org/service-profile/initiator-group* # create initiator vhba1
UCS-A /org/service-profile/initiator-group* # create initiator vhba2
UCS-A /org/service-profile/initiator-group* # set storage-connection-policy scpolicyZone1
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## ローカルストレージ接続ポリシー定義を持つ vHBA イニシエータ グループの設定

この手順では、サービス プロファイルにローカルファイバチャネルストレージ接続ポリシーを作成すると想定しています。既存のストレージ接続ポリシーを使用する場合は、[既存のストレージ接続ポリシーでの vHBA イニシエータ グループの設定 \(42 ページ\)](#) を参照してください。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile profile-name</b>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>create initiator-group group-name</b>	ファイバチャネルゾーン分割の指定イニシエータ グループを作成し、サービス プロファイルのイニシエータ グループモードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/initiator-group # <b>create initiator vhba-name</b>	vHBA イニシエータ グループの指定 vHBA イニシエータを作成します。  必要に応じて、この手順を繰り返しグループに 2 番目の vHBA を追加します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/initiator-group # <b>create storage-connection-def</b> <i>policy-name</i>	指定したストレージ接続ポリシー定義を作成し、ストレージ接続定義モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A /org/service-profile/initiator-group/storage-connection-def # <b>create storage-target</b> <i>wwpn</i>	指定された WWPN を持つストレージターゲットエンドポイントを作成し、ストレージターゲットモードを開始します。
ステップ 7	UCS-A /org/service-profile/initiator-group/storage-connection-def/storage-target # <b>set target-path</b> {a   b}	ターゲットエンドポイントとの通信に使用するファブリック インターコネクタを指定します。
ステップ 8	UCS-A /org/service-profile/initiator-group/storage-connection-def/storage-target # <b>set target-vsan</b> <i>vsan</i>	ターゲットエンドポイントとの通信に使用する VSAN を指定します。
ステップ 9	UCS-A /org/service-profile/initiator-group # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、ServInst90 という名前のサービス プロファイルに対し 2 つの vHBA イニシエータを持つ initGroupZone1 という名前の vHBA イニシエータ グループを設定し、scPolicyZone1 という名前のローカルストレージ接続ポリシー定義を設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile # create initiator-group initGroupZone1
UCS-A /org/service-profile/initiator-group* # create initiator vhb1
UCS-A /org/service-profile/initiator-group* # create initiator vhb2
UCS-A /org/service-profile/initiator-group* # create storage-connection-def scPolicyZone1
UCS-A /org/service-profile/initiator-group/storage-connection-def* # create storage-target

20:10:20:30:40:50:60:70
UCS-A /org/service-profile/initiator-group/storage-connection-def/storage-target* # set

target-path a
UCS-A /org/service-profile/initiator-group/storage-connection-def/storage-target* # set

target-vsan default
UCS-A /org/service-profile/initiator-group* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/initiator-group #
```

# サービス プロファイル テンプレートの管理

## アセット タグ値の設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/ を <i>org-name</i> として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>sp-name</i>	指定したサービス プロファイルのサービス プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>set asset-tag value</b> <i>at-name</i>	サーバのアセット タグ名を指定します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 5	新しいアセット タグを BIOS で有効にするため、サーバを再起動します。	

### 例

次に、サーバにアセット タグを設定する例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile spl
UCS-A /org/service-profile* # set asset-tag value EXAMPLE
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## サーバ アセット タグの表示

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A /org# <b>scope server</b> <i>server-name</i>	サービス名を入力します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server# <b>show detail</b>	サーバアセット タグを表示します。

## 例

次に、サーバのアセット タグを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/5
UCS-A/chassis/server # show detail
Server:
  Slot: 5
  Name:
  User Label:
  Overall Status: Config
  Oper Qualifier: N/A
  Service Profile: asset-tag
  Asset Tag: EXAMPLE
  Association: Associated
```

## サービス プロファイルに割り当てられた **UUID** のサービス プロファイル テンプレートのプールからのリセット

更新中のサービス プロファイル テンプレートに割り当てられている UUID サフィックス プールを変更しても、そのテンプレートで作成されたサービス プロファイルに割り当てられている UUID は Cisco UCS Manager によって変更されません。Cisco UCS Manager を使用して、新しくサービス プロファイルに割り当てられたプールから UUID を割り当て、関連付けられたサーバに反映させるには、UUID をリセットする必要があります。サービス プロファイルおよび関連付けられたサーバに割り当てられている UUID は、次の状況でのみリセットできます。

- サービス プロファイルが更新中のサービス プロファイル テンプレートから作成されていて、UUID サフィックス プールから割り当てられた UUID が含まれている。
- UUID サフィックス プール名がサービス プロファイルで指定されている。たとえば、プール名が空でない場合。
- UUID の値が 0 でない（サーバハードウェアに由来しない）。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	UUID をリセットする組織でコマンドモードを開始します。システムにマルチテナント機能が含まれていない場合、ルート組織モードに入るには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	関連付けられたサーバの UUID を別の UUID サフィックス プールにリセットする必要があるサービス プロファイルを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>set identity dynamic-uuid derived</b>	サービス プロファイルがプールから UUID を動的に取得するように指定します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、サービス プロファイルの UUID を別の UUID サフィックス プールにリセットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile # set identity dynamic-uuid derived
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## vNIC に割り当てられた MAC アドレスの、サービス プロファイル テンプレートのプールからのリセット

更新中のサービス プロファイル テンプレートに割り当てられている MAC プールを変更しても、そのテンプレートで作成されたサービス プロファイルに割り当てられている MAC アドレスは Cisco UCS Manager によって変更されません。Cisco UCS Manager を使用して、新しくサービス プロファイルに割り当てられたプールから MAC アドレスを割り当て、関連付けられたサーバに反映させるには、MAC アドレスをリセットする必要があります。サービス プロファイルおよび関連付けられたサーバに割り当てられている MAC アドレスは、次の状況でのみリセットできます。

- サービス プロファイルが更新中のサービス プロファイル テンプレートから作成されていて、MAC プールから MAC アドレスが割り当てられている。
- MAC プール名がサービス プロファイルで指定されている。たとえば、プール名が空でない場合。
- MAC アドレスの値が 0 でない（サーバハードウェアに由来しない）。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	MAC アドレスをリセットするサービス プロファイルを含む組織でコマンドモードを開始します。システムにマルチテナント機能が含まれていない場合、ルート

	コマンドまたはアクション	目的
		組織モードに入るには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile profile-name</b>	関連するサーバの MAC アドレスを別の MAC アドレスにリセットする必要があるサービス プロファイルでコマンド モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>scope vnic vnic-name</b>	MAC アドレスをリセットする vNIC で コマンド モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>set identity dynamic-mac derived</b>	vNIC がプールから MAC アドレスを動的に取得するように指定します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/vnic # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、サービス プロファイルで vNIC の MAC アドレスをリセットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile # scope vnic dynamic-prot-001
UCS-A /org/service-profile/vnic # set identity dynamic-mac derived
UCS-A /org/service-profile/vnic* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/vnic #
```

## vHBA に割り当てられた WWPN のサービス プロファイル テンプレートのプールからのリセット

更新中のサービス プロファイル テンプレートに割り当てられている WWPN プールを変更しても、そのテンプレートで作成されたサービス プロファイルに割り当てられている WWPN は Cisco UCS Manager によって変更されません。Cisco UCS Manager を使用して、新しくサービス プロファイルに割り当てられたプールから WWPN を割り当て、関連付けられたサーバに反映させるには、WWPN をリセットする必要があります。サービス プロファイルおよび関連付けられたサーバに割り当てられている WWPN は、次の状況でのみリセットできます。

- サービス プロファイルが更新中のサービス プロファイル テンプレートから作成されていて、WWPN プールから WWPN が割り当てられている。
- WWPN プール名がサービス プロファイルで指定されている。たとえば、プール名が空でない場合。
- WWPN の値が 0 でない（サーバ ハードウェアに由来しない）。



## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	WWPN をリセットするサービス プロファイルを含む組織でコマンドモードを開始します。システムにマルチテナント機能が含まれていない場合、ルート組織モードに入るには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	WWPN をリセットする vHBA のサービス プロファイルを入力します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>scope vhma</b> <i>vhba-name</i>	WWPN をリセットする vHBA でコマンドモードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>set identity dynamic-wwpn derived</b>	vHBA がプールから WWPN を動的に取得するように指定します。
ステップ 5	UCS-A /org/service-profile/vhba # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次に、サービス プロファイルで vHBA の WWPN をリセットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServInst90
UCS-A /org/service-profile # scope vhma vhba3
UCS-A /org/service-profile/vhba # set identity dynamic-wwpn derived
UCS-A /org/service-profile/vhba* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile/vhba #
```

vHBA に割り当てられた WWPN のサービス プロファイル テンプレートのプールからのリセット